

資金調達手段と財務状況

株式会社ブロードエンタープライズ

東証グロース（証券コード：4415）

INDEX

1. 資金調達手段について
2. 今後のBSについて
3. 今後のCFについて

当社の強みは初期導入費用0円プランであり、プランを支える安定的な資金調達手段が必要

	長期借入	債権流動化	短期借入（当座貸越）
期間	5年	-	1年
金額	約10億	無制限	20億円（※30億円）の枠
メリット	利息費用のみ発生	資金調達の上限枠なし 営業CFの改善に働く	審査なしで借入可能 利息費用のみ発生
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 資金調達の上限枠がある 銀行の審査が通るか不明 財務CFの増加 	<ul style="list-style-type: none"> 1回あたりの債権流動化コストが多額 債権売却損（6年分の利息費用相当）が発生 	期限の利益がない
用途	コストが安いため優先的に実施	できる限り債権をプールしてから実施	債権をプールする期間の預金 残高調整として利用。債権流 動化のタイミングで返済

※銀行の審査済みで未契約のものが10億円あるため合計見込み枠としては30億円



BSの現在のイメージ

2022年12月期 BS科目一部抜粋

現金	990	短期借入金	404
売掛金	1,241	前受金	2,706
前払費用	1,090		
		長期借入金	1,317
繰延税金資産	752		
合計	4,073	合計	4,427

新収益認識基準により多額に発生した科目だが、
4-5年かけて減少していく

払済み工事代、機器代金であり、将来費用になるもの

前払費用	↓	1,090	前受金	↓	2,706
繰延税金資産	↓	752			

払済税金であり将来税金費用になるもの

入金済み売上代金であり、将来売上になるもの

債権見合いを借入

当座貸越
30億円の枠がある

売掛金	1,241	短期借入金	404
		長期借入金	1,317

6年～10年の長期の債権

コストが安いのでできるだけ長期借入をしたい

売掛金と短期借入金の動き

売掛金の増加に伴い短期借入も増加

売掛金 ↑

短期借入金 ↑

長期借入金

売掛金を売却した入金で短期借入金を返済

売掛金 ↓

短期借入金 ↓

長期借入金

債権ためる + 借入

流動化 + 返済



営業CFの推移イメージ

①売上一括入金かつ売上0%成長としたケース

→営業利益と営業CFが同額になる。

■PL

	1年目	2年目	3年目
売上	720,000	720,000	720,000
原価（工事代）	360,000	360,000	360,000
粗利	360,000	360,000	360,000
販管費	288,000	288,000	288,000
営業利益	72,000	72,000	72,000

売上の50%と仮定

売上の10%と仮定

■CF

	1年目	2年目	3年目
売上入金	720,000	720,000	720,000
債権流動化入金	—	—	—
工事代支払	-360,000	-360,000	-360,000
販管費	-288,000	-288,000	-288,000
営業CF	72,000	72,000	72,000

一致



営業CFの推移イメージ

②すべて初期導入費用0円プランかつ売上0%成長としたケース

→初年度は売上入金がなく営業CFはマイナスだが、2年目以降は営業利益と営業CFが一致。

■PL

	1年目	2年目	3年目
売上	720,000	720,000	720,000
原価（工事代）	360,000	360,000	360,000
粗利	360,000	360,000	360,000
販管費	288,000	288,000	288,000
営業利益	72,000	72,000	72,000

10,000×72回分と仮定

■CF

	1年目	2年目	3年目
売上入金	—	120,000	120,000
債権流動化入金	—	600,000	600,000
工事代支払	-360,000	-360,000	-360,000
販管費	-288,000	-288,000	-288,000
営業CF	-648,000	72,000	72,000

1年目の期末に販売すると仮定した場合、売上入金はなし

1年目販売の10,000×12回分が入金

1年目販売の残債権10,000×60回分を流動化

2年目以降は一致



営業CFの推移イメージ

③すべて初期導入費用0円プランかつ売上30%成長としたケース

→工事代と販管費の支払がPLの費用の分だけ発生するが、売上入金は一前年度分が入金され、結果として支払額のほうが大きくなり、営業利益がプラスでも営業CFがマイナスとなる。

■PL

	1年目	2年目	3年目
売上	720,000	936,000	1,216,800
原価	360,000	468,000	608,400
粗利	360,000	468,000	608,400
販管費	288,000	374,400	486,720
営業利益	72,000	93,600	121,680

10,000×72回分と仮定

13,000×72回分

30%成長と仮定

■CF

	1年目	2年目	3年目
売上入金	—	120,000	156,000
債権流動化	—	600,000	780,000
工事代支払	-360,000	-468,000	-608,400
販管費	-288,000	-374,400	-486,720
営業CF	-648,000	-122,400	-159,120

2年目販売の
13,000×12回分が入金

2年目販売の残債権
13,000×60回分を流動化

営業CFはマイナスが続く



本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。

上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新・改訂を行う義務を負うものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

